

科目名

地域福祉論

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護選択必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

講義、グループディスカッションを通じ、地域課題の事例(模擬事例)を基に、地域福祉の基本的な考え方と課題把握の方法について概説する。
また、地域住民の生活ニーズ充足にむけての社会資源の活用・調整・開発のための方法について学び実践力を養う。
(授業の目的・ねらい)
1. 地域生活を支えるさまざまな団体、組織を知り、自らが社会福祉の担い手として地域で活動できる。
2. 地域包括ケア(システム)の構築に向けた取り組みについて理解することができる。

到達目標

1. 地域福祉の基本的考え方について理解し説明できる。
2. 地域住民の自立生活実現にむけての各組織、専門職の役割について理解し説明できる。
3. 地域問題解決における援助方法について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所の配布資料等を読んでおくこと。
事後学習として、配布資料やノート等に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	後期
1	地域福祉の歴史とその基本的考え方(地域福祉の理論)
2	地域福祉の基本的考え方(地域分析の枠組み)
3	地域福祉に関連するわが国の諸制度①
4	地域福祉に関連するわが国の諸制度②

5	地域福祉に関連する組織(社会福祉法人)
6	地域福祉に関連する組織(NPO)
7	地域福祉に関連する組織(社会福祉協議会)
8	地域福祉に関連する組織(共同募金会)
9	地域福祉に関連する組織(民生委員・児童委員)
10	コミュニティソーシャルワークの実際①
11	コミュニティソーシャルワークの実際②
12	社会資源活用、調整、開発の進め方
13	事例検討①
14	事例検討②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

授業態度(10点)、 確認テスト(10点)、レポート課題(10点)、 筆記試験(70点)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『(新版)よくわかる地域福祉』ミネルバ書房	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、社会の理解Ⅰ、Ⅱ	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会福祉概論

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を習得する。
福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方、自立生活支援の理解を通しその生活を支える必要性を理解し身につける。
(授業の目的・ねらい)
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎身につける。

到達目標

1. 人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解し専門職としての基盤となる倫理観を身につける。
2. 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し説明することができる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	○
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	後期	
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体
2		人権思想の潮流とその具現化
3		人権や尊厳に関する日本の諸規定
4		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①
5		社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②

6		生命倫理と介護福祉
7		人権尊重と権利擁護
8		家庭内暴力に関する法律と介護福祉
9	介護にける尊厳の保持と自立の概念	自立概念の多様性
10		自立と自己選択・決定と自律
11		自立支援がめざすもの
12		自立への意欲と動機づけ
13		介護を必要とする人々の自立と自立支援
14		尊厳の保持と自立、自立支援の関係性
15		尊厳を守る介護

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第3版)』 中央法規出版 『福祉ってなんだ』古川孝順 岩波ジュニア新書	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーションⅠ

《1単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

自己理解、他者理解を基に人間関係の形成とコミュニケーションの基礎について理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて基礎的な知識を身につけその実践力を養う。
(授業の目的、ねらい)
介護の実践のために必要な人間の理解や対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

到達目標

1. 人間と人間関係について理解し説明できる。
2. 対人関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
3. 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。
4. 組織におけるコミュニケーションの意義について理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	人間と人間関係① 人間らしさの始まり
2	人間と人間関係② 自分と他者の理解
3	人間と人間関係③ 発達心理学から見た人間関係

4	人間と人間関係④ 社会心理学から見た人間関係
5	人間と人間関係⑤ 社会関係とストレス
6	対人関係におけるコミュニケーション① コミュニケーションの概念
7	対人関係におけるコミュニケーション② コミュニケーションの基本構造
8	対人関係におけるコミュニケーション③ コミュニケーションの手段
9	対人援助関係におけるコミュニケーション① 人間関係とコミュニケーション
10	対人援助関係におけるコミュニケーション② 対人援助における基本的態度
11	対人援助関係におけるコミュニケーション③ 援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則
12	組織におけるコミュニケーション① 組織の条件とコミュニケーションの特徴
13	組織におけるコミュニケーション② 組織における情報の流れ
14	組織におけるコミュニケーション③ 組織において求められるコミュニケーション
15	組織におけるコミュニケーション④ 集団討議(KJ法・ブレインストーミング)

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

人間関係とコミュニケーションⅡ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解するために対人サービス(ヒューマンサービス)としての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理方法の基礎について概説する。

(授業の目的、ねらい)

介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための実践的な能力を習得する。

到達目標

1. 介護におけるチームマネジメントの意義について理解し説明できる。
2. 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成、活用等について理解し説明できる。
3. リーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基礎を理解し説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	介護実践におけるチームマネジメント① ヒューマンサービスとしての介護サービス
2	介護実践におけるチームマネジメント② 介護現場で求められるチームマネジメント
3	介護実践におけるチームマネジメント③ 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み

4	ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
5	ケアを展開するためのチームマネジメント② チームでケアを展開するためのマネジメント
6	ケアを展開するためのチームマネジメント③ チームの力を最大化するためのマネジメント
7	ケアを展開するためのチームマネジメント④ リーダーシップ・フォロワーシップについて考える
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① 介護福祉職のキャリアと求められる実践力
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザイン
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発
11	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 自己研鑽に必要な姿勢
12	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント⑤ スーパービジョンの機能の理解
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織の構造
14	組織の目標達成のためのチームマネジメント② 介護サービスを支える組織の機能と役割
15	組織の目標達成のためのチームマネジメント③ 介護サービスを支える組織の管理

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)

テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第1巻 人間の理解(第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係を体系的にとらえることができるように関連諸制度を含めて概説する。

(授業の目的、ねらい)

1. 個や集団、社会単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的にとらえることができるようになる。
2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。

到達目標

1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の仕組みについて理解し説明できる。
2. 人間の生活と社会の関わりや地域における生活構造について理解し自助・互助・共助・公助について説明することができる。
3. 地域共生社会について、その求められる社会的背景や理念について説明できる。
4. 地域包括ケアについて、その求められる社会的背景や理念について説明できる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	生活を幅広くとらえる(「人間」をとらえる複合的視点)
2	生活の基本機能(生活の多様性の理解)
3	ライフスタイルの変化
4	家族の機能と役割
社会と生活の仕組み	

5	社会と生活の仕組み	社会・組織の機能と役割
6		地域・地域社会(自助・互助・共助・公助)
7		地域社会における生活支援(地域社会の変化)
8		地域の集団、組織による生活支援
9	地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域福祉の発展① 地域福祉の理念と歴史的発展
10		地域福祉の発展② 地域福祉の充実
11		地域共生社会① 地域共生社会と社会的背景
12		地域共生社会② 地域共生社会の理念
13		地域共生社会③ 実現に向けた取り組み
14		地域包括ケア① 地域包括ケアの理念
15		地域包括ケア② 地域包括ケアシステム

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)』 中央法規出版 『入門高齢者福祉(第3版)』ミネルバ書房	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
社会の理解Ⅱ、介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

社会の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する制度について概観する。
(授業の目的、ねらい)
1. 日本の社会保障制度の基本的な考え方、仕組みについて理解し説明することができるようになる。
2. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について介護実践に必要な観点から基礎的な知識を理解し実践に結び付けることができるようになる。

到達目標

1. 社会保障制度の基本的な考え方のしくみ、社会保障の現状と課題を理解し説明できる。
2. 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者保健福祉の現状と課題を理解し説明することができる。
3. 障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解し説明することができる。
4. 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解し説明することができる。

事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	○
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期	
1	社会保障制度	社会保障の基本的な考え方と制度の発達
2		社会保障制度の仕組みと持続可能性
3		高齢者保健福祉の動向と今日的課題

4	高齢者福祉と介護保険制度	高齢者保健福祉に関する法体系
5		介護保険制度① 制度創設の背景と基本的理解
6		介護保険制度② 組織、団体、介護支援専門員等の役割
7		介護保険制度③ 介護保険制度の動向
8	障害者福祉と障害者保健福祉制度	障害者保健福祉の動向と関連する法体系
9		障害者総合支援法① 自立支援給付と地域生活支援事業
10		障害者総合支援法② 障害支援区分と利用続き
11		障害者総合支援法③ 相談支援事業と相談支援専門員
12		介護保険制度と障害者総合支援制度
13	介護実践に関する諸制度	個人の権利を守る制度・施策
14		保健医療に関する制度・施策
15		貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策と、域生活を支援する制・施策

成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、授業参加度(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(70%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第2巻 社会と制度の理解(第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護領域を編成する科目	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

介護の基本Ⅲ

《4単位(講義)／経営福祉学2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護サービスを必要とする人の理解について概説する。
・介護サービスについて概説する。
・多職種連携について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の連続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①介護福祉士とは何かを理解することができる。
- ②介護サービス提供の場を理解することができる。
- ③介護実践における多職種協働を理解することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノート及び資料の整理を行い復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回					
1	介護を必要とする人の生活を支える仕組み	介護を必要とする人の生活を支える仕組み	16	協働する多職種の役割と機能	多職種協働の意義と目的
2			17		
3			18		各職種の役割と専門性①
4			19		
5			20		
6			21		
7		介護を必要とする人の生活の場とフォーマルな支援の活用	22		各職種の役割と専門性②
8			23		
9			24		
10			25		

11		26	チームアプローチの意義と目的
12		27	
13		28	
14		29	チームアプローチの具体的展開
15	インフォーマルな支援の活用	30	

成績評価基準及び方法

定期試験(80%)、学習参加度及びレポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ、Ⅱ(第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
社会の理解 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

コミュニケーション技術 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹(11)・小野尚寿(4)

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について概説する。
・介護における家族とのコミュニケーション技法について概説する。
・障害の特性に応じたコミュニケーション技法について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

到達目標

①介護を必要とする方とのコミュニケーションの基本について説明できる。
②適切なコミュニケーションの実践ができる。
③様々なコミュニケーション障害のある利用者を理解できる。
④レクリエーションを通しコミュニケーションの工夫ができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	○
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
	○			
実施する	実施しない			
	○			

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護を必要とする人とのコミュニケーション(久保)	介護におけるコミュニケーションの基本
2		コミュニケーションの基本技術①
3		コミュニケーションの基本技術②
4		目的別や集団におけるコミュニケーション技術

5		家族との関係づくり
6	介護における家族とのコミュニケーション(久保)	家族への助言・指導・調整
7		家族関係と介護ストレスへの対応
8		施設レクリエーション
9	レクリエーションの実際とコミュニケーションのあり方(久保)	
10		在宅レクリエーション
11		
12	障害の特性に応じたコミュニケーション～聴覚障害(小野)	聴覚障害がある方とのコミュニケーション
13		
14		手話をやってみよう
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、定期試験(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、人間関係とコミュニケーション、認知症の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程 I

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

- ・介護過程の意義と基礎について概説する。
- ・介護過程の展開について概説する。
- ・事例を活用しながらアセスメントについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
- ・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

- ①介護過程の意義と基礎について理解することができる。
- ②生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解することができる。
- ③ICFの考え方について理解することができる。
- ④介護過程の展開のプロセスについて事例をもとに理解できる。
- ⑤介護を提供するためのアセスメントの必要性を理解できる。

事前事後学習

- ・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
- ・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
	実施する	実施しない			
試験実施の有無		○			

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の意義と基礎的理解	介護過程の意義・目的
2		介護過程とICF
3		
4		生活支援における介護過程の意義
5		
6		介護過程の展開を支える考え方
7		
8		アセスメントとは
9		意図的な情報収集
10		情報の分析、ニーズの明確化・課題の抽出

11	介護過程の展開の理解～事例検討	アセスメント事例①
12		アセスメント事例②
13		アセスメント事例③
14		事例を基にアセスメント表を作成する
15		

成績評価基準及び方法

テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 (第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、発達と老化の理解、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅰ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

久保英樹

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の展開について概説する。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の意義と基礎について理解できる。
②介護過程の展開について理解できる。
③介護実習Ⅰaにおける介護過程の実践の振り返りができる。
④介護実習Ⅰbにおける介護過程の実践の取り組みができる。
⑤アセスメント・計画立案の方法を理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」を読んでおくこと。
・授業時に使用した配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支援することができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○	○			
	実施する	実施しない			
試験実施の有無		○			

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護過程の意義と基礎的理解	アセスメント(意図的な情報収集、分析・ニーズの明確化・課題の抽出)
2		
3		介護計画の立案と実施
4		
5		
6	介護過程の展開の理解～アセスメント表の作成	アセスメント表作成の実際
7		
8		
9		
10		

11	介護過程の展開の理解～計画立案	アセスメント表を参考に計画立案をする
12		
13		
14	介護過程の展開の理解～事例研究	実習における実践報告
15		事例研究

成績評価基準及び方法

テキスト	参考文献・推薦図書
『最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 (第2版)』 中央法規出版	『新版21世紀の現代社会福祉用語辞典(第3版)』 学文社
関連のある授業科目	資格等
介護実習、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅰ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用する福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心で心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援の理解	生活支援の意義・目的
2		生活支援と介護過程
3	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	ひげ・爪の手入れ
4		点眼・化粧
5		口腔ケアを理解する
6		
7	自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	歩行介助を理解する
8		車いす介助を理解する

9		移乗の介護を理解する
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持を理解する
11		体位変換を理解する
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)
14	課題別の技術確認	技術の確認
15		

成績評価基準及び方法

レポート(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術 I・II」(第2版)中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた身じたくの介護について概説する。
・自立に向けた移動の介護について概説する。
・自立に向けた排泄の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①他の領域との関連性を理解できる。
②介護現場で使用される福祉用具や、介護予防について理解できる。
③在宅や施設での生活環境など、その特性を理解できる。
④安心して心地よい「生活の場」とは何かを理解できる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回		
1	生活支援の理解	生活支援の意義・目的
2		生活支援と介護過程
3	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた身じたくの介護	シーツ交換
4		洗面・整髪・ひげ・爪の手入れ・点眼・化粧
5		口腔ケア
6		
7	自立に向けた移動の介護～移動・移乗の基本的理解	歩行介助
8		車いす介助

9		移乗の介護
10	生活支援における介護	安楽な体位の保持
11		体位変換
12	自立に向けた排泄の介護～排泄の意義・目的	排泄の介護(尿器・差し込み便器)
13		排泄の介護(トイレ・ポータブルトイレ)
14	課題別の技術確認	技術の確認
15		

成績評価基準及び方法

実技試験(50%)、学習態度(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻・第7巻 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版(第2版)	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護基本、コミュニケーション技術など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた身じたくの介護を習得する。
・自立に向けた移動の介護を習得する。
・自立に向けた排泄の介護を習得する。
・自立に向けた休息・睡眠の介護を習得する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解することができる。
- ②在宅や施設での生活など、その特性を理解することができる。
- ③利用者の状況に応じた介護技術が展開することができる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、演習の課題をできるように復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた身じたくの介護・自立に向けた移動の介護	知的障がい者と生活支援
2		介護技術の展開
3		精神障がい者と生活支援
4		介護技術の展開
5		高次脳機能障害と生活支援
6		介護技術の展開

7		発達障がい者の生活支援
8		介護技術の展開
9		重度心身障がい者の生活支援
10		介護技術の展開
11	自立に向けた排泄の介護	障害に応じた排泄の介護
12		介護技術の展開
13	自立に向けた休息・睡眠の介護	障害に応じた休息・睡眠の介護
14		介護技術の展開
15	まとめ	

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(20%)、効果測定(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版(第2版)	・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」 中央法規出版 ・「プロが教える本当に役立つ介護術」 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅹ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・人生の最終段階における介護について概説する。
・福祉用具の意義と活用について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①他の領域との関連性を理解する。
- ②利用者の状況に応じた介護技術が展開できる。
- ③人生の最終段階における介護が理解できる。
- ④福祉用具の意義と活用について理解できる。

事前事後学習

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業後にはノートおよび資料の整理を行い、復習すること。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	人生の最終段階とは
2	人生の最終段階にある人の介護の視点
3	

4	人生の最終段階における介護	人生の最終段階を支えるための基本となる知識と技術
5		
6		家族・介護職が「死」を受けとめる過程
7		
8	福祉用具の意義と活用	福祉用具の意義と目的
9		
10		自立に向けた福祉用具活用の視点
11		
12		適切な福祉用具の選択の知識と留意点
13		
14		今後の福祉機器とICTの広がり
15		

成績評価基準及び方法

学習態度およびレポート(40%)、定期試験(60%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版(第2版)	・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」 中央法規出版 ・「幸せな旅立ちを約束します 看取り士」 コスモス21
関連のある授業科目	資格等
コミュニケーション技術・介護実習 ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護の基本Ⅳ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・自立に向けた介護について概説する。
・介護を必要とする人の理解(人間の多様性と複雑性)と協働する多職種の機能と役割について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①自立に向けた介護について理解できる。
②介護を必要とする人の理解ができる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		
1	自立に向けた介護	自立とは
2		意思決定支援
3		自立支援の考え方
4		自立支援の具体的展開
5		利用者理解の視点とICF
6		利用者理解の視点とエンパワメント
7		利用者理解の視点とストレングスモデル
8	介護を必要とする人の理解	価値観の理解
9		生活史の理解
10		価値観の理解
11		生活習慣の理解
12		多様性の理解
13		働くことの意義
14		就労・雇用
15		就労支援と介護福祉

成績評価基準及び方法

学習態度・レポート(60%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新 介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ」(第2版)「最新 介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」(第2版)中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護の基本VI

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概説する。
・介護従事者の安全について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

①介護における安全の確保とリスクマネジメントから介護従事者の安全について理解できる。
②介護従事者の安全について理解する。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	○
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント～介護における安全の確保	介護事故と法的責任
2		危険予知と危険回避(観察、予測、分析など)
3		介護におけるリスク(住宅内事故、介護事故)
4		介護におけるリスク(災害、社会的リスクなど)
5		リスクマネジメントの意義・目的
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント～事故防止、安全対策	ヒヤリハット
7		防火・防災・減災対策と訓練
8		セーフティマネジメント
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント～感染対策	感染予防の意義と目的
10		感染予防の基礎知識と感染症対策
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント～薬剤の取扱いに関する基礎知識と連携	安全な薬物療法を支える視点と薬剤耐性の知識
12		多職種の法律との関係と連携
13	介護従事者の安全～介護従事者の心身の健康管理	介護従事者を守る法制度(労働基準法等)
14		介護従事者を守る環境整備(育児・介護休暇等)
15		介護従事者の心身の健康管理(予防と対策)

成績評価基準及び方法

学習態度・レポート(60%)、定期試験(40%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新 介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ」(第2版)「最新 介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」(第2版)中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護過程Ⅲ

《2単位(演習)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

橋本 晃

実務経験

施設に勤務

授業の概要

・介護過程の意義と基礎について理解できる。
・介護過程の実践的展開について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の試行過程を習得することを目的とする。

到達目標

①介護過程の実践を理解できる。
②アセスメントや計画立案の実際が理解できる。
③介護実習Ⅰbの介護過程の実践の振り返りができる。
④介護実習Ⅰcの介護過程の実践の取り組みと振り返りができる。
⑤介護実習Ⅱの介護過程の実践の取り組みができる。

事前事後学習

・毎授業の前に、必ずテキスト「介護過程」の当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておき次回授業に備えておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	○
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			○

試験実施の有無

実施する	実施しない
	○

授業計画(項目・内容)

回						
1	介護過程の意義と基礎的理解	アセスメント(意図的な情報収集・分析・ニーズの明確化・課題の抽出)	16	介護過程の展開の理解～事例	アセスメント作成	
2			17		ICFモデルを活用した情報の整理表の作成	
3		計画の立案・実施	18			
4			19			
5		評価(評価の視点と記入)	20			計画の立案・実施の作成
6			21			
7		評価(再アセスメント・修正)	22			評価の作成
8			23			
9		ICFの視点(情報の整理)	24			評価(再アセスメント・修正)の作成
10			25			
11	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究①	実習における実践報告	26	介護過程の展開の理解～実践報告と事例研究②	実習における実践報告	
12			27			
13		事例研究	28		事例研究	
14			29			
15	介護過程の展開の理解～事例	アセスメント作成	30	まとめ		

成績評価基準及び方法

学習態度および提出物(20%)、レポート(80%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」(第2版) 中央法規出版	・「介護福祉用語辞典」中央法規出版 ・「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版 ・「ICFをとり入れた介護過程の展開」建帛社
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、生活支援技術、からだのしくみなど	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

心理学

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護選択必修》

担当者

坂本哲朗

実務経験

授業の概要

私たちは、高齢者への道を歩み続けている。介護福祉に関わろうとする若者たちの今の心は、日々どのように揺れ動いているのだろうか。本授業では、個人の心理や言動を社会との関係において解明し、心地よく生きる道筋を探究する。家族心理学、教育心理学、社会心理学などから幅広く学ぶ中で、自他の理解を深め生き抜く知恵を学び合う。また、「人はなぜいじめるのか」の緊急かつ大命題の理解と解決への方策に迫る。

到達目標

- ・心についての一般的知識を得て整理することができる。
- ・ペアから始まり、集団での交流活動で積極的に参加することができる。
- ・心に関わる各種情報に関心を持ち、学習課題に活用することができる。
- ・自己の特長を最大に発揮し、意見発表や討論協議ができる。

事前事後学習

心の問題について日常的に関心を持ち、ノートに切り抜きやメモをしておく。
緊急に解決すべき課題が生じた場合の解決策として、身近な人、物、事との絆づくりを進める。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	オリエンテーション。人は見かけで決まるか
2	本当の私とはⅠ 自尊感情
3	本当の私とはⅡ 感情と健康
4	相手と親しくするにはⅠ コミュニケーション
5	相手と親しくするにはⅡ 依頼と承諾
6	もて男、もて女であるにはⅠ 恋愛の法則
7	もて男、もて女であるにはⅡ 恋愛の進展、失恋

8	みんなの力で達成するにはⅠ 集団の力
9	みんなの力で達成するにはⅡ 組織の力
10	見えない情報圧力とはⅠ 消費行動
11	見えない情報圧力とはⅡ 群衆心理
12	ストレス社会をしなやかにⅠ ケータイ、ネット依存
13	ストレス社会をしなやかにⅡ いじめ
14	小論文作成
15	小論文発表会・意見交流

成績評価基準及び方法

学習態度(45%) レポート(55%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
随時、資料を配布する。	「本当にわかる心理学」植木理恵著 日本実業出版社 「よくわかる社会心理学」小口孝司著 ナツメ社
関連のある授業科目	資格等
	介護福祉士国家試験受験資格 社会福祉主事任用資格

科目名

生活支援技術Ⅶ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

山口亮治

実務経験

病院に勤務

授業の概要

生活支援について概説する。
自立支援に向けた居住環境の整備について概説する。
自立に向けた身支度の介護について概説する。
自立に向けた移動の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①生活支援の理解ができる。
- ②介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。
- ③利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	生活支援の理解～利用者の状態・状況に応じた支援技術とは
2	
3	肢体不自由に応じた介護・介護現場におけるリハ
4	
5	
6	自立に向けた視覚障害に応じた介護・居室環境の整備
7	
8	
9	聴覚・言語障害に応じた介護・起居動作とその介護
10	

11	重複障害に応じた介護・移乗の介護
12	
13	
14	自立に向けた移動の介護
15	

成績評価基準及び方法

テスト(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	「介護福祉用具辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅷ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

山口亮治	実務経験	病院に勤務
------	------	-------

授業の概要

・生活支援について概説する。 ・障害に応じた自立に向けた食事の介護について概説する。 ・障害に応じた自立に向けた排泄の介護について概説する。 ・障害に応じた自立に向けた入浴・清潔保持の介護について概説する。 ・障害に応じた機能訓練、レクリエーションの介護について概説する。 ・障害に応じた在宅復帰支援について概説する。 (授業の目的、ねらい) ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。	・障
---	----

到達目標

①介護を必要とする方々の様々な状況・状態に応じた生活支援が理解できる。 ②利用者の状況・状態に応じた生活支援技術が展開できる。
--

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。 授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	
1	
2	心臓機能障害に応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)
3	
4	
5	呼吸器機能障害に応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)
6	
7	
8	腎臓機能障害に応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)

9	
10	筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)
11	
12	
13	パーキンソン病に応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)
14	悪性関節リウマチに応じた介護(生活上の困りごとの支援、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解)
15	

成績評価基準及び方法

テスト(100%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「リハビリテーションからみた介護技術」中央法規出版	
関連のある授業科目	資格等
からだのしくみ、介護基本など	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

介護の基本Ⅰ

《4単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

山城	実務経験	包括に勤務
----	------	-------

授業の概要

・介護の基本となる理念について概説する。
・介護福祉士の役割と機能について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。

到達目標

- ①介護福祉の基本となる理念を理解できる。
②わたしたちの生活を理解できる。
③介護を必要とする人の理解ができる。
④根拠をもって介護を行うということの意味を理解することgできる

事前事後学習

- ・毎授業の前に、テキストの当該箇所を読んでおくこと。
・授業後にはノート・配布資料等を整理しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	○
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回			回			
1	介護福祉の基本となる 理念	介護福祉、介護福祉士の理解	1 6	介護福祉の基本となる理念	高齢者の生活の個別性と多様性の理解	
2		介護福祉、介護福祉士の理解	1 7		社会の変化と介護福祉の歴史～制度の変遷	
3			1 8		社会の変化と介護福祉の歴史～介護需要の増加と発展	
4			1 9		介護の社会化～介護問題の複雑化・多様化	
5	介護を必要とする人の 理解		日常生活の理解		2 0	社会の変化と介護福祉の歴史～地域社会の変化
6		介護福祉を必要とする人たちの暮らし	2 1		介護福祉の基本理念～尊厳を支える介護	
7			その人らしさとは		2 2	介護福祉の基本理念～自
8					2 3	
9					2 4	
1 0		2 5				
1 1		障害者の生活の個別性と多様性の理解	2 6			
1 2			2 7			

1 3	高齢者の生活の個別性と多 様性の理解	2 8	立を支える介護
1 4		2 9	
1 5		3 0	介護福祉士の専門性

成績評価基準及び方法

学習態度(50%)、定期試験(50%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第3巻 介護基本Ⅰ」中央法規出版 「最新介護福祉士養成講座 第4巻 介護基本Ⅱ」中央法規出版	「新版21世紀の現代社会福祉用語辞典」学文社
関連のある授業科目	資格等
介護過程、社会福祉概論、発達と老化の理解、ほか	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

発達と老化の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・人間の成長と発達の基礎的理解について概説する。
・老年期の基礎的理解について概説する。
(授業の目的、ねらい) 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①人間の成長と発達の基礎について理解できる。
②老年期の発達と成熟について説明できる。
③老化に伴うところとからだの変化と日常生活について説明できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回	
1	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達の考え方
2	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達の原則・法則
3	人間の成長と発達の基礎的理解～成長・発達に影響する要因
4	人間の成長と発達の基礎的理解～発達理論
5	人間の成長と発達の基礎的理解～発達段階と発達課題
6	人間の成長と発達の基礎的理解～身体的機能の成長と発達

7	人間の成長と発達の基礎的理解～心理的機能の発達
8	人間の成長と発達の基礎的理解～社会的機能の発達
9	人間の成長と発達の基礎的理解～発達段階別にみた特徴的な疾病や障害
10	老年期の基礎的理解～老年期の定義
11	老年期の基礎的理解～老化とは
12	老年期の基礎的理解～老年期の発達課題
13	老年期の基礎的理解～老年期をめぐる今日的課題①
14	老年期の基礎的理解～老年期をめぐる今日的課題②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

発達と老化の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・老化に伴うところとからだの変化と生活について概説する。
・高齢者と健康について概説する。
(授業の目的、ねらい) 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①老化に伴うところとからだの変化と生活について理解できる。
- ②高齢者と健康について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	
1	老化に伴うところとからだの変化と生活～老化にともなう身体的な変化と生活への影響①
2	老化に伴うところとからだの変化と生活～老化にともなう身体的な変化と生活への影響②
3	老化に伴うところとからだの変化と生活～老化にともなう心理的な変化と生活への影響①
4	老化に伴うところとからだの変化と生活～老化にともなう心理的な変化と生活への影響②
5	老化に伴うところとからだの変化と生活～老化にともなう社会的な変化と生活への影響①

6	老化に伴うこころとからだの変化と生活～老化にともなう社会的な変化と生活への影響②
7	高齢者と健康～健康長寿に向けての健康
8	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴①
9	高齢者と健康～高齢者の症状・疾患の特徴②
10	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①(骨格系・筋系、脳神経系、皮膚・感覚器系、循環器系)
11	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②(呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系)
12	高齢者と健康～高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③(歯・口腔疾患、悪性新生物、感染症、精神疾患他)
13	保健医療職との連携①
14	保健医療職との連携②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

認知症の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・認知症を取り巻く状況について概説する。
・医学的・心理的側面から見た認知症の基礎について概説する。
(授業の目的、ねらい) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

①認知症を取り巻く状況について理解できる。
②医学的・心理的側面から見た認知症の基礎について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

試験実施の有無

実施する

実施しない

○

授業計画(項目・内容)

回	
1	認知症を取り巻く状況～認知症ケアの歴史と理念
2	認知症を取り巻く状況～認知症高齢者の現状と今後
3	認知症を取り巻く状況～認知症に関する行政の方針と施策
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症とは何か
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～脳のしくみ

6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～中核症状の理解
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～生活障害の理解
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～BPSDの理解
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の診断と重症度
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の原因疾患と症状・生活障害①
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の原因疾患と症状・生活障害②
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の治療薬
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の予防
14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解～認知症の人の心理
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

認知症の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて概説する。
・認知症の方をサポートする為の連携と協働について概説する。
・認知症の方の家族の支援について概説する。
(授業の目的、ねらい) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

到達目標

- ①認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。
②認知症の方の生活をサポートする為の連携と協働について理解できる。
③認知症の方の家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症当事者からみえるもの
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症ケアの実際
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人とのコミュニケーション
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのケア①

6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのケア②
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのさまざまなアプローチ①
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人へのさまざまなアプローチ②
9	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～認知症の人の終末期医療と介護
10	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア～環境づくり
11	連携と協働～認知症の人の地域生活支援
12	連携と協働～多職種連携と協働
13	家族への支援～介護者支援①
14	家族への支援～介護者支援②
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第13巻 認知症の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

障害の理解 I

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・障害の基礎的理解について概説する。
・障害の医学的・心理的側面の基礎的知識について概説する。
(授業の目的、ねらい)
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①障害の基礎について理解できる。
②障害の医学的・心理的側面の基礎的知識を習得できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	障害の基礎的理解～障害の概念
2	障害の基礎的理解～、障害者福祉の基本理念
3	障害の基礎的理解～障害者福祉に関する制度
4	障害の基礎的理解～障害者福祉制度と介護保険制度①
5	障害の基礎的理解～障害者福祉制度と介護保険制度②

6	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～障害のある人の心理
7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～肢体不自由（運動機能障害）
8	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～視覚障害
9	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～聴覚・言語障害
10	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～重複障害
11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～内部障害
12	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～重症心身障害
13	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～知的障害
14	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～精神障害
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

障害の理解Ⅱ

《1単位(演習)／経営福祉学科2年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・障害の医学・心理的側面の基礎的知識について概説する。
・連携と協働について概説する。
・家族への支援について概説する。
(授業の目的、ねらい)
障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することを目的とする。

到達目標

- ①障害の医学的・心理的側面の基礎的知識を習得できる。
- ②障害のある方の生活をサポートする為の連携と協働について理解できる。
- ③障害のある方の家族への支援について理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	○
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	
1	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～高次脳機能障害
2	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～発達障害
3	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解～難病
4	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害に伴う機能の変化と生活への影響の基本的理解
5	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～生活と障害、生活上の課題と支援のあり方

6	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害を取り巻く環境
7	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害のある人への手帳
8	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害がある人の自立支援
9	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～QOLを高める支援のための理解
10	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援～障害の特性に応じた支援内容
11	連携と協働～地域のサポート体制
12	連携と協働～チームアプローチ
13	家族への支援～家族への支援とは
14	家族への支援～家族の介護力の評価と介護負担の軽減
15	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

こころとからだのしくみ I

《4単位(講義)／経営福祉学科1年通年／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原 淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・こころのしくみについて概説する。
・からだのしくみについて概説する。
・移動、身じたく、食事に関連したこころとからだのしくみについて概説する。
(授業の目的、ねらい)
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを目的とする。

到達目標

- ①こころのしくみについて理解できる。
- ②からだのしくみについて理解できる。
- ③移動に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。
- ④身じたくに関連したこころとからだのしくみについて理解できる。
- ⑤食事に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
	○				
試験実施の有無	実施する	実施しない			
	○				

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	こころのしくみの理解～「健康」とは何か	16	移動に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が移動に及ぼす影響
2	こころのしくみの理解～人間の欲求の基本的理解	17	移動に関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応
3	こころのしくみの理解～自己概念と尊厳	18	移動に関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応(演習)
4	こころのしくみの理解～「こころ」とは何か	19	身じたくに関連したこころとからだのしくみ～身じたくのしくみ①
5	からだのしくみの理解～からだのつくりの理解	20	身じたくに関連したこころとからだのしくみ～身じたくのしくみ②
6	からだのしくみの理解～細胞・組織・器官・器官系	21	身じたくに関連したこころとからだのしくみ～身じたくのしくみ(演習)
7	からだのしくみの理解～人体の構造と機能①	22	身じたくに関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が身支度に及ぼす影響
8	からだのしくみの理解～人体の構造と機能②	23	身じたくに関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応
9	からだのしくみの理解～生命を維持するしくみ	24	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～食事のしくみ①
10	からだのしくみの理解～自律神経系	25	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～食事のしくみ②
11	からだのしくみの理解～生命を維持する徴候の観察①	26	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～食事のしくみ(演習)
12	からだのしくみの理解～生命を維持する徴候の観察②	27	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響①
13	移動に関連したこころとからだのしくみ～移動のしくみ①	28	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が食事に及ぼす影響②
14	移動に関連したこころとからだのしくみ～移動のしくみ②	29	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応①
15	移動に関連したこころとからだのしくみ～移動のしくみ(演習)	30	食事のしくみに関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応②

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第11巻こころとからだのしくみ」中央法規出版	「介護福祉用語辞典」中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

こころとからだのしくみⅡ

《2単位(講義)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

篠原淑子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて概説する。
・排泄に関連したこころとからだのしくみについて概説する。
・休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて概説する。
・人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて概説する。
(目的、ねらい)
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することを目的とする。

到達目標

- ①入浴に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。
- ②排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。
- ③休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。
- ④人生の最終段階にある人のこころとからだのしくみについて理解できる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回		回	
1	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ①	16	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
2	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ②	17	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響(演習)
3	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ～入浴・清潔保持のしくみ(演習)	18	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ～変化の気づきと対応(演習)
4	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①	19	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ～「死」をとらえ方
5	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ～心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②	20	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ～「死」に対するこころの理解(受容する段階)

6	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①	21	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(家族の「死」を受容する段階)
7	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②	22	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～「死」に対するところの理解(家族の「死」を受容する段階)
8	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ	23	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の特徴(死の三徴候等)
9	排泄に関連したところとからだのしくみ～排泄のしくみ(演習)	24	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の特徴(死後の身体変化)
10	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①	25	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時の医療の実態
11	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②	26	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～終末期から危篤時、臨終期の観察ポイント
12	排泄に関連したところとからだのしくみ～心身の機能低下が排泄に及ぼす影響(演習)	27	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～死後の連絡(死亡診断書、死後の処置)
13	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応①	28	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～介護の役割と医療との連携①
14	排泄に関連したところとからだのしくみ～変化の気づきと対応②	29	人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ～介護の役割と医療との連携②
15	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ～休息・睡眠のしくみ	30	まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(20%)、レポート(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第11巻ところとからだのしくみ」第3版 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
生活支援技術、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格

科目名

生活支援技術Ⅲ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

竹永 鴻

実務経験

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた居住環境の整備について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

①住宅の改修を課題に平面計画の設計及び作図
②居住環境の改修設計に関係する学習レポートの提出
③高齢者及び障害者のための住宅の基本的な計画のレポート提出

事前事後学習

①人が安心して快適に暮らすために必要な環境整備を習得する。
②他の領域との関連性を理解する。
③住宅や施設での生活環境など、その特性を理解する。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義

演習

実験

実習

実技

○

○

実施する

実施しない

試験実施の有無

○

授業計画(項目・内容)

回	
1	自立に向けた居住環境の整備
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価基準及び方法

レポート(30%)、課題等提出物(50%)、学習態度(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ」中央法規出版	1.長寿社会対応住宅設計(戸建住宅編) 2.高齢化住宅リフォームマニュアル(熊本県監修)
関連のある授業科目	資格等
	介護福祉士国家試験受験資格

【次年度に向けての改善等について】

本学の卒業生が介護専門員となるためにも、ぜひ在宅改修の知識と計画、設計の技術を身につけたい。	
授業目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

科目名

医療的ケア概論Ⅰ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

中村 京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

・医療的ケアを行う際に必要な、個人の尊厳・保健医療等の制度・喀痰吸引・清潔操作・感染予防・チーム医療について学ぶ

到達目標

・医療における倫理的配慮の必要性や吸引と経管栄養を行う際に必要な基礎知識・技術(バイタルサイン・清潔操作)を理解する。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後はノート整理を行い、最終授業時に提出を予定している。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	人間と社会(個人の尊厳・医と介の倫理・個人情報の守秘義務)
2	人間と社会(医療的ケアを受ける利用者の対応・介護・看護の立場・生活支援)
3	保健医療制度とチーム医療(保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律)
4	保健医療制度とチーム医療(喀痰吸引と経管栄養についての看護の立場・生活支援)

5	安全な療養生活(喀痰吸引や経管栄養の安全な実施。リスクマネジメントについて)
6	安全な療養生活(ヒヤリハットとアクシデント)
7	安全な療養生活(救急蘇生法)
8	清潔保持と感染予防(標準予防策・手洗い・うがい、手指消毒液等)
9	清潔保持と感染予防(職員の感染予防対策・生活環境)
10	清潔保持と感染予防(医療廃棄物の処理)
11	健康状態の把握(平常時の健康状態の把握、健康観察法と平常時の違いの把握)
12	健康状態の把握(バイタルサインとその見方)
13	健康状態の把握(バイタルサインの測定方法)
14	健康状態の把握(急変時の把握とその対応・準備)
15	医療的ケアと介護福祉士の責任まとめ

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ、介護実習、介護総合演習	介護福祉士国家試験受験資格、医療的ケア 基本研修 修了

科目名

医療的ケア概論Ⅱ

《2単位(講義)／経営福祉学科1年後期／卒業選択、介護必修》

担当者

中村京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ① 喀痰吸引のしくみについて説明できる。
- ② 安全で適切な喀痰吸引の手順を説明できる。
- ③ 喀痰吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	呼吸のしくみと働き・喀痰吸引
2	喀痰吸引とは
3	喀痰吸引を安全に実施できるための留意点
4	喀痰吸引で用いる器具・器材の仕組み
5	喀痰吸引の必要物品と消毒法
6	利用者の状態観察と喀痰吸引前の利用者への説明

7	喀痰吸引の実施と留意点
8	喀痰吸引の実施と留意点・口腔内
9	喀痰吸引の実施と留意点・鼻腔内
10	喀痰吸引の実施と留意点・気管カニューレ
11	人工呼吸器と吸引
12	こどもの吸引
13	呼吸器系の感染と予防
14	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
15	急変・事故発生時の対応と事前対策

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了

科目名

医療的ケア概論Ⅲ

《1単位(講義)／経営福祉学科2年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

中村京子

実務経験

病院に勤務

授業の概要

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

到達目標

- ① 経管栄養のしくみについて説明できる。
- ② 安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。
- ③ 経管栄養を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

事前事後学習

毎授業前に、必ず当該箇所のテキストを読んでおく。授業後は、ノート整理を行う。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○				
実施する	実施しない			
○				

試験実施の有無

授業計画(項目・内容)

回	前期
1	消化器系のしくみと働きの理解 消化・吸収と消化器の症状
2	経管栄養法の理解 注入する内容に関する知識
3	経管栄養上の留意点

4	こどもの経管栄養について
5	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応(説明と同意)
6	感染予防 急変・事故発生時の対応と事前対策
7	高齢者及び障害児・者の経管栄養について
8	経管栄養で用いる器具・機材の理解 経管栄養の技術と留意点①
9	経管栄養で用いる器具・機材の理解 経管栄養の技術と留意点②
10	医療職への連絡・方法

成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(10%)、レポート(20%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了

科目名

医療的ケア演習

《1単位(演習)／経営福祉学科2年集中／卒業選択、介護必修》

担当者	中村京子・篠原淑子	実務経験	病院に勤務
授業の概要	経管栄養及び喀痰吸引に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養及び喀痰吸引、急変状態への対応など、経管栄養及び喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。		
到達目標	1. 経管栄養や痰の吸引について説明できる。 2. 安全で適切な経管栄養や痰の吸引の手順を説明できる。 3. 経管栄養やたん吸引を受けている人の日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。 4. 緊急時の対応について理解できる。		
事前事後学習	配布されているプリントを読み、手順を覚えて演習の準備をする。		

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	○
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法	講義	演習	実験	実習	実技
試験実施の有無	実施する	実施しない			

授業計画(項目・内容)

回	前期 (集中)
1	経管栄養や痰吸引の手順を復習し、演習を行う。
2	経管栄養や痰の吸引演習
3	経管栄養や痰の吸引演習
4	経管栄養や痰の吸引演習
5	経管栄養や痰の吸引演習
6	経管栄養や痰の吸引演習
7	経管栄養や痰の吸引演習

8	経管栄養や痰の吸引演習
9	経管栄養や痰の吸引演習
10	経管栄養や痰の吸引演習
11	経管栄養や痰の吸引演習
12	経管栄養や痰の吸引演習
13	経管栄養や痰の吸引演習
14	救急蘇生法演習
15	まとめ

成績評価基準及び方法

経管栄養法（経鼻経管栄養、胃ろう各5回）、吸引（口腔、鼻腔、気管切開各5回）最終回に実技試験。および救急蘇生法1回実施	
テキスト	参考文献・推薦図書
「最新・介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 中央法規出版	必要に応じて紹介します
関連のある授業科目	資格等
こころとからだのしくみ	介護福祉士国家試験受験資格 医療的ケア 基本研修修了

科目名

生活支援技術Ⅵ

《1単位(演習)／経営福祉学科1年前期／卒業選択、介護必修》

担当者

田脇 祥子

実務経験

授業の概要

・生活支援について概説する。
・自立に向けた食事の介護について概説する。
・自立に向けた家事の介護について概説する。
(授業の目的、ねらい)
・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。

到達目標

- ①高齢者や障がい者の家庭生活の基本知識を学ぶ。
②食生活の知識とその援助方法を学習する。
③高齢者や障がい者の支援に応じた食生活が理解できる。

事前事後学習

毎授業の前にテキストの該当範囲の内容を調べておくこと。
授業後にはノートを確認しておくこと。

	ディプロマポリシーに係る学習成果	学科での関与度
1	社会生活におけるマナーの習得	
2	高い倫理性の保持	
3	尊厳と自立を支えるケアを実践する	
4	専門職として自立的に介護過程の展開ができる	
5	身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	○
6	介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる	
7	QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる	
8	地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる	
9	関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する	
10	本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる	
11	制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる	
12	介護職の中で中核的な役割を担う	

授業実施方法

講義	演習	実験	実習	実技
○	○			

試験実施の有無

実施する	実施しない
○	

授業計画(項目・内容)

回	
1	家事の意義と目的
2	
3	家事に関するアセスメント
4	
5	生活支援と自立に向けた食事の介護～自立に向けた食生活の介護(田脇)
6	
	家事の介助の技法

7		
8		
9		
10		高齢者・障害者の食生活
11		衣類の役割と機能
12		
13	生活支援と自立に向けた家事の介護～自立に向けた衣生活の介護(田之上)	衣類の素材・裁縫
14		
15		高齢者・障害者の被服

成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、レポート又は定期試験(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「新・介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版	「介護福祉用語辞典」 中央法規出版
関連のある授業科目	資格等
社会福祉概論、介護基本、障がい理解など	介護福祉士国家試験受験資格